



カタルーニャ訪問記

山田 章雄

LABIO21も本号で通算74号を数えることになった。小生が情報委員会委員長を仰せつかったのが25号であるから、相当の長きに亘ってLABIO21の編集に携わってきたことになる。私とLABIO21の出会いは更に古く18号にまで遡れる。2004年10月号の海外散歩が小生のLABIO21デビューであった。題目は「マドリッド超駆足訪問記」。遠いヨーロッパの地に、たった2.5日滞在した単独渡航記を掲載してもらったものだ。今読み返してみてもトンデモ旅だったとつくづく思う。その時のリベンジを狙ったわけではないが、14年の歳月が流れ、再び情熱の国スペイン

を訪れるチャンスが巡ってきたのである。

2014年5月、ドイツ北部に住む姪を訪ねた際、隣のオランダアムステルダムで1.5日バードウォッチングをすることになった。その時のガイドがロバートというオランダ人だったのだが、なかなか好感の持てる中年のガイドだった。彼が、暫くしたらスペインに移住し、そこでバードウォッチングガイドをするので、是非遊びに来いという。その言葉を真に受けスペイン訪問を決断したのがそもそもの始まりである。時期的には渡りがほぼ完了する5月下旬とし、2018年5月24日のANA便で発つこと

とした。乗り継ぎ地のブリュッセル空港には予定より30分ほど早く到着したものの、ブリュッセル航空機は落雷の影響で1時間余り遅れて離陸することになった。フライトを待つ間に、ベルギー産ビールを味わおうと思いバーに向かったが銘柄がわからず、一番安いやつを注文した。ここまでのフライトで4本の映画を立て続けに鑑賞し、疲れ切った頭には冷えたビールがたまらない。ワインもしこたま飲んだはずなのに。

1時間余り遅れて9時半を回ったところに到着したバルセロナ空港には、ガイドのロバートが出迎えに来てくれていた。そのま





ま彼の車、三菱製のピックアップトラック、に荷物を積み込み、バルセロナ郊外のカステルデフェスにあるホテルに到着したのは22時半すぎだった。渡されたカードキーの調子が悪くフロントに持ち帰り、再び入力してもらったがやはりだめ。よくよく見たら磁気カードに亀裂が入っていた。カードそのものを交換してようやく部屋に入ることができた。夜更かしが大好きな流石のスペインでも、このホテルのレストランは22時までの営業だということで夕食はあきらめかけたが、ロバートが交渉してくれたおかげで夕食にありついた。実は道中食べ続けてきたので全く空腹感はなかったが、控えめに頼んだつもりでも、その大半はやはり食べきれず。ベッドに入ったのは真夜中を過ぎていた。ほぼ24時間よく頑張りました。

翌日は列車と地下鉄を乗り継いでバルセロナ市街へ。フニクラ（登山電車）でモンジュイック公園へ。公園へ続く急坂のところどころにはエスカレーターが設置されていたが、結構な運動になった。市街観光なので鳥

撮影用のレンズはやめにし、80-135mmズームにしたのだが、ホシムクドリ、ムジホシムクドリ、キアシカモメ、ワカケホンセイインコ、オキナインコ、キバシリなどが出現し、後悔先に立たず。その後、ボケリア市場、グエル公園を訪れ、遂にサグラダファミリアへ。ロバートは入場せず私たち夫婦のみで教会内へ。日本語の解説用レシーバーを借りたものの、そもそも宗教心のかけらもないため、日本語であっても教会関連の専門用語を理解するのに時間を要し、教会内部を行ったり来たりし思いのほか時間をかけて楽しんでしまった。そろそろ出ようかと出口に近づいたところ、行列を発見。よく見ると塔内部に上がるエレベーターに並んでいるのである。私たちのチケットを見るとその料金も含まれているではないか。決して安くない入場料（30ユーロ）を払ったのだからと、ケチ根性に火が付き、内部探検に挑戦することにした。因みに入場料による収益は、この建築を完成させるために使われるそうだ。エレベーターから降りた後は、螺旋状の狭い階段を降り

るだけなのだが、高所恐怖症を患うわが身にとって、この場合は身の縮む、いや身の竦む場所であった。後悔先に立たず。教会内部は荘厳さと斬新さに満ちており、自然とのかかわりを重視したというガウディ建築は、これだけを見にバルセロナに出かける十分な価値を有していることを実感できた。

次の日からはカタルーニャ及び隣接するアラゴンでのバーディングが本格的に始まる。ロバートの運転するピックアップトラック（このトラックの後部荷台は彼の手製の木製カバーが雨除け兼埃除けになっている。我々の大型トランク2個の出し入れで結構苦勞しているようだったから、いずれ取り外すか、大幅な設計変更をするかもしれない）で、地中海に面した湿地や田んぼ、さらにはピレネー山脈へと鳥見の旅が続く。スペインではランチが最も重要な食事です。2時間ほどかけてじっくり楽しむのだが、我々も大体14時ごろになってようやくランチにありつく日々だった。はじめの頃は、何でこんな時間にランチなんだと若干イラついたが、ディナー



が21時過ぎ、朝食が8時くらいと、全てがおおよそ2時間遅れであることに気づき、自らを制することに成功した。夜明けも6時過ぎだし、日没も21時半を回することを考えればなんと合理的ではないか。しかもセットメニューには大抵グラスワインがついてくる。ある田舎町のレストランではグラスで頼んだつもりが、ボトルがデンと出され大いに驚かされた（喜びもつかの間、全て飲んでしまったらその日の仕事はそれで終わってしまうので、泣く泣くグラスに2杯までとする）。宿泊はB&Bのプチホテル（ここは教会に隣接するなかなか素敵なお店だったが、毎時鐘がなるたびに起こされて安眠できなかったのが残念だ）、修道院を改装した豪華ホテル（部屋も食事もすべてよかったが、翌朝6時ごろ庭で鳥見をもくろむも、巨大な木製のドアががっちり閉められており、しかも従業員はどこにも見当たらず、結局8時



まで外に出ることはできずじまい。朝食前にほんの少しの散歩しか楽しめなかった。ただ出発前にもう一度辺りの探索をしたところ大きなモリフクロウの親子に出会うことができた。この出会いのおかげで一気に幸せな気分になった）、ピレネーでは「アルプスの少女ハイジ」にでも出てきそうな「エーデルワイス」（ここでは日本人のトレッキングツアーグループと出会った）などなかなか多様性に富んでいた。

フランス国境近くのピレネー山脈中腹あたりにまで来ると、雪を頂いた山々が、筆舌を尽くしきれぬほどの美しさで私たちを歓迎してくれた。そこら中に咲き誇る高山植物、時々顔をのぞかせるマーモットなど、ピレネーの自然にたっぷり浸ることができた。ピレネーを後にし、再び南へと向かう。途上、スペイン内戦で廃墟となった村を目

のあたりにした。フランコ政権が容赦のない空爆を本格化させたため、石を積み上げた建物などひとたまりもなかったのだろう。このあたりの村は大抵丘の上に展開されており、中心に教会が位置しているようだ。急な石畳沿いに住居がひしめいた感じに作られている。敵からの攻撃が仕掛けにくいようになっているとの説明だったが、フランスやドイツ、イギリスではあまり見かけたことがなかったような気がする。カタルーニャだからなのだろうか。そういえば街や村のあちこちで黄色いリボンをよく見かけた。独立賛成派が掲げているのだそうだ。カタルーニャとアラゴンの境界にある小川に架かる橋の上には、大きなハサミの絵が描かれていた。国民投票の後描かれたそうだ。この地の独立に関してはいろいろな意見があるのだろうが、心配していたほどの混乱はなく、無事に旅を楽しむことができた。

スペインの鳥見計画はある意味で失敗だったかもしれない。というのは一年前モンゴルゴビ砂漠を訪問したが、生態に似ているところが多いせいか、見られる鳥の多くが重複していたのである。例えばヒゲワシやクロハゲワシなどのハゲワシや、岩場を好むサバクヒタキの仲間などである。もう一点、近年地中海沿岸では鳥のハンティングが大掛かりに行われており、鳥たちが全般的に神経質になってしまっていることである。このた

めカメラを持って近づくのがかなり難しい。またしても後悔先に立たず、である。とはいってもの最終的には155種を数える種を観察できそのうち50種は初めての出会いだった。ガイドのロバートに感謝。

既に記したようにロバートとは4年前に一度会っただけの仲である。4年前の会話で彼の奥さんがUNICEFだったと思うが、国際機関に勤務しており、その時点ではマレーシアに在住しているということだった。我々が帰国した直後、マレーシア航空機がウクライナ上空で砲撃された事件が起きた。彼女の無事をメールで問い合わせたことや、その後フェイスブックを通して繋がるなどしたことで、妙に親近感を覚えていた。今回の旅の最後の3泊は彼の家に泊まらせてもらった。ほかの村と同じように、石畳の急坂に面したドアを開け階段を降りると、内部は意外と広いことに気づく。崖に張り付くように建てられた建物で、内壁と床、天井とも全て石造りだった。ここを拠点に、地中海に面したエプロデルタでバーディングを堪能した。また、スペイン

語でフィンカという農園を整備中で、そのコテージには彼がアフリカから持ち帰った巨大な木の根で作ったテーブルがしつらえてあった。現在はニワトリ小屋を建設中だとのこと。

彼はかなりリベラルな考えの持ち主だが、一方で結構気が短いところもあり、ドライブ中も時々無礼な輩に出会うと、大きな声で罵ったりしていた。しかも英語で。多分スペイン語だと喧嘩になるのを恐れてだろう。ある日ランチに入った店で、不運なことに30人は超えると思われる子供たちの団体に遭遇してしまった。外国の子供の躰はよいものと、誤解していた我々には驚きの騒々しさと、ロバートの堪忍袋がぶっちぎれた。別のグループの女の子を仲間と勘違いし、英語で（またしても）まくしたて始めた。女の子は事情が理解できないようで、ただひたすら「なんだ、このキチガイじじいは」といった雰囲気の中で彼を睨みつけていた（彼の名誉のために付け加えるが、暫くして自らの勘違いに気づいた彼は、いかにも気まずそうにその娘に詫言を入れしていた。もちろん英

語で）。この店はおそらくロバートのお気に入り、遠方からのゲストである私たちを美味しいものでもてなそうと思っていた矢先が、この喧噪だったため怒りが爆発したのだと思う。それにしても凄まじいまでのやかましさだったので、小生もフェイスブックでライブを発信してしまったくらいである。何となく性格も似ているところがあるようだななんて思っていたが、彼がギャングに遭遇した時の武勇伝を聞いて、彼の半端なさを知った。3人組の若造が銃をちらつかせながら、双眼鏡を覗かせろと脅してきたところ、軍隊経験のある彼は奴らに蹴りを入れて追いつめたのだそう。家に帰って暫く経った後で、足が痛むのを見てみたらなんと撃たれていたのだそう。その時の銃弾は取り除けなくて、今でも足に残っているのだそう。こんな度胸とか無鉄砲なところは、小生は持ち合わせていない。ただ、自然を愛し、不正を嫌い、人と群れるのをあまり好まない偏屈なところは似ていなくもない。残りの人生で再び出会う機会はないかもしれないが、フェ



イスブックなどのおかげでお互い近況を知ることはできる。良い友人であり続けたい。

さて最終日の午前中は地中海沿岸のドライブと鳥見を楽しみながらバルセロナ空港方面へ向かう。ロバートおすすめのレストランでランチの予定が、現地に到着すると跡形もないではないか。どうやら海辺の再開発に巻き込まれ、営業をやめたようだ。別のレストランを見つけ出したところ、ここがなかなか良いところだった。残念ながらかみさんは昨晚から胃の調子が不良で、折角のランチもいまいち楽しめなかったようだ。風光明媚な海岸線をぶち壊すセメント工場に出入りする大型トラックの恐怖と闘いながら、ピックアップ

トラックは空港へと向かった。十分に時間の余裕をもって空港に到着。ロバートと別れ、フランクフルト行きにチェックイン。フランクフルトでの乗り継ぎ時間は1時間45分と結構タイトなのだが、当の飛行機はなかなか離陸しない。またしてもフランスおよびスイス上空で雷が発生しており、我々の機はまたもや1時間遅れで離陸することになった。途上機長がドイツ訛りの早口で状況を説明するも(各コネクティングフライトの航空会社には遅れを伝えてあるようなことを言っていた)、不安があったためアテンダントに確認しに行ったが、ただ表示に従えの一点張り、隣の男性アテンダントが現地に着いたら電話をON

にすればショートメールが航空会社からくるだろうという。電話番号登録してあれば、の話だが。1時間遅れでタッチダウン。フランクフルト空港はだだっ広い。パスポートコントロールを終え、かみさんと超速足で羽田行きのゲートに向かい、ようやく間に合うことができた。トランジットの時間が短くなったのは不幸中の幸いだった。帰りの機内ではさすがに4本もの映画を見る気にはならなかったが、ケチ根性は大したものでしっかりと2本を鑑賞しながら長いフライトを乗り切ったのである。

(日動協ホームページ、LABIO21カラーの資料の欄を参照)

洗練された技術 理想への貢献

動物実験導入教育訓練用マウスシミュレータ
Mimicky Mouse

製品内容

ボディ：1体/尾1本
付属品：専用潤滑剤1本/ベビーパウダー 1本



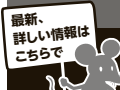
三協ラボサービス株式会社
SANKYO LABO SERVICE CORPORATION, INC.

本社	東京都江戸川区西一之江2-13-16
本社営業部	TEL. 03-3656-5559 FAX. 03-3656-5599 skl-tokyo@sankyolabo.co.jp
北陸営業所	TEL. 076-425-8021 FAX. 076-491-1107 skl-hokuriku@sankyolabo.co.jp
札幌営業所	TEL. 011-881-9131 FAX. 011-883-1176 skl-sapporo@sankyolabo.co.jp
つくばラボ	TEL. 029-829-3555 FAX. 029-862-5555 skl-tsukuba_lab@sankyolabo.co.jp

販売 ●実験用動物 ●関連商品 ●実験動物輸送

飼育受託 ●実験動物全般の飼育管理業務(オープンシステム・バリアシステム・アイソレータシステム等) ●飼育施設環境管理(洗浄業務から各種環境測定まで) ●実験支援・代行 ●各第三者認証への対応

技術受託 ●遺伝子組換え動物の維持・繁殖 ●無菌動物の作出・維持 ●実験受託(非GLP) ●施設クリーンアップ



www.sankyolabo.co.jp